

発寒ひかり  
保育園だより

2022年  
6月号

巻頭言

さる5月10日・11日の両日、天候に恵まれ今年度のいも植えを行いました（いも堀りの時は、お手伝いをお願い出来るほどコロナの状況が落ち着いている事を願いつつ）。始めに、植えるじゃがいもの種類（だんしゃく・メイクイン）の話をしました。その中で、「だんしゃくは柔らかくなり易くて、バターポテトとか美味しいんだって。メイクインは煮崩れしにくいから、カレーなどにするといいんだって」との私の話しに、年長クラス（5歳児）のN君、「それって（煮崩れしないメイクインの方が）お得ってこと？」とのことに驚かされました。

子どもたちの言葉やちよつとした会話に、感心させられたり、笑わせられたり、はっ・・・と気づかされたり。小さな体と頭を使って一生懸命色々な事を考えているのですね。

掛札逸美先生（心理学博士 保育の安全研究・教育センター）の研修資料の中に、乳幼児期の言葉かけ・言葉のやりとりの大切さが書かれていました。「じょうず！」↓「ひっかからないで跳べたね！」や「きれいだね」↓「青い色がとってもきれい」など、『子どもにかける言葉を豊かに、具体的ににする』というものです。子どもたちにも同じ言葉を使っていないかとの問いに、ドキリとさせられました。

乳幼児期の言葉かけ、言葉のやりとりが多いほど、後年に測った認知スキルだけではなく、非認知スキル（読み書き・計算などの数値では測れない能力）も高いという研究結果が出ているそうです。まずは、自分が発する言葉をちよつと意識してみませんか。

園長 阿部 尚子